

2011年実践研究フォーラム
パネルセッション

実践・研究・実践研究を問い直す

—日本語教育における

実践研究のこれまでとこれから—

本パネルの趣旨

日本語教育の実践研究について、これまでの実践研究の系譜をたどりながら、主に以下の3つの観点から問い直します。

1. 実践研究の系譜：実践研究はこれまでどのような試みとして語られてきたか。
2. 実践研究の現在：実践研究は現在どのような営みとして語られているか。
3. 実践研究のこれから：1、2を踏まえ、日本語教育において、実践研究はどのような営みであるべきか。

第1部 フォーラム委員からの調査報告

- 報告1 主担当:菅生早千江(国際日本語普及協会)
「実践研究」に関する関係機関の取り組み
- 報告2 主担当:高木美嘉(早稲田大学)
学術雑誌、紀要等における「実践研究」の規定
- 報告3 主担当:古屋憲章(早稲田大学)
日本語教育実践を対象とする記述の流れ

第2部 パネルディスカッション： 日本語教育における実践研究とは何か

- 奥田 純子 氏(コミュニケーション学院学長)
「日本語学校における実践研究 —『実践研究の手引き』
刊行をめぐって—」
- 才田 いずみ 氏(東北大学大学院文学研究科教授)
「実践研究発表会「私の工夫・私の失敗」をめぐって」
- 細川 英雄 氏(早稲田大学大学院日本語教育研究科教授)
「実践研究フォーラムの立ち上げをめぐって —実践研究は何
をめざすか—」
- 堀井 恵子 氏(武蔵野大学大学院言語文化研究科教授)
「実践研究フォーラムの「今とこれから」」

第3部 意見交換・まとめ

今、そしてこれからの
日本語教育において、
実践研究はどのような営みであるべきか。